

## 中学生の人生イメージに関する調査研究

愛知教育大学職業指導教室 坂柳恒夫

(昭和59年12月25日受理)

### はじめに

進路指導とは、「生徒の一人一人が、自分の将来の生き方への関心を深め、自分の能力・適性等の発見と開発に努め、進路の世界への知見を広くかつ深いものとし、やがて自分の将来の展望を持ち、進路の選択・計画をし、卒業後の生活によりよく適応し、社会的・職業的自己実現を達成していくことに必要な生徒の自己指導能力の伸長を目指す、教師の組織的・継続的な指導・援助の過程<sup>(1)</sup>」をいい、それは「人生設計」や「生き方」の指導・援助であるともいわれている。このように、進路指導の本質は、単なる卒業時の就職あっ旋ないしは上級学校への受験対策的な指導・サービスにのみあるのではなく、自己の生き方を自ら主体的に選択する能力や態度を育てることにある。

従って、進路指導の本質的な目標である「人生設計」や「生き方」の指導・援助を有効・適切に実践していくためには、まず、個々の生徒が、自己の人生や生き方に対して、どのような考え方や感じ方をしているかなどについての確に把握しておくことが必要とされる。

今日、変動する社会の中であって、増加する青少年の問題行動や非行の低年齢化を防止するうえでも、さらに、青少年の健全育成や生涯教育の観点からも、「人生設計」や「生き方」の指導・援助としての進路指導の役割は、ますます重要になってくるものと考えられる。

### 研究の目的

「人生」という語(言葉)を国語辞典<sup>(2)</sup>で調べると、「①人間がこの世に生きていくこと、その生き方」であるとか、「②人間がこの世に生きている期間」といったことが記載されている。このような意味に関しては、大多数の人は、共通した合意をもつことが可能である。これは、一般に、「辞

典的意味」であるとか「外延的意味」であるといわれている。

ところが、同じ「人生」という語(言葉)がある個人には「苦勞」を思い浮かべたり、また、別のある個人には、「楽しく」、「おもしろく」感じられるかもしれない。このような、個人が、ある事象に対してもっている主観的な感情・態度・評価などの統合体は、一般的に、「イメージ」であるとか「内包的意味」といわれる。

イメージは、多くの場合、各個人の過去の学習経験や、その時の心理的・身体的状態などによって影響されやすく、流動的な性質をもっているといえる。しかしながら、人間の行動は、個人がある事象に対してもっているイメージによって規定・影響されることも否定できないのである。我々は、イメージを把握することによって、個人のもつ態度のある側面を理解し、さらには、その全体を推測することができるようになる。ひいては、その個人の行動をも予想することが可能となるのである。

イメージを客観的・量的に把握することは、決して容易なことではないが、Osgoodら(1957)は、それを数量的に測定するために、Semantic Differential Method(略称:SD法)を開発した。SD法は、意味微分法とか意味差別法、あるいは、意味尺度法などとも呼ばれている。元来は、言語や記号のもつ概念的な内容を数量的に測定する言語心理学的方法であるが、現在では、一般にイメージ調査法として、職業、企業、政党、人物、色彩など、多方面にわたって応用されている。

なお、Osgoodらは、因子分析を用いて、①評価(Evaluation)、②活動性(Activity)、③力量性(Potency)、という3つの因子を抽出している。また、日本語の場合には、①価値的評価、②情緒的評価、③力動的評価、④計量的評価、と

いう4つの因子(尺度)に分類されることも明らかにされてきている。

人間の生き方も、個人が自己の人生に対して抱いているイメージによって影響されるものと考えられる。従って、生徒の生き方や人生設計、進路選択行動を考える際には、彼らが自己の人生についてどのようなイメージをもっているかを理解しておくことが必要である。

本研究の目的は、心理学的には青年前期にあたる中学生を対象にして、①人生に対するイメージを測定するための尺度を構成し、その構造を明らかにすること、②人生イメージの発達の变化について検討することである。

研究の方法

1. 調査の対象・時期

調査の対象となったのは、愛知県中都市部の公立中学校の生徒、総計294名である(ただし、有効回答票のみ)。

<表1>は、調査対象人数を、性別、学年別を示したものである。

	1 年	3 年	計
男子	78	60	138
女子	82	74	156
計	160	134	294

調査は、昭和58年7月上旬に実施した。

2. 人生イメージの調査内容

<表2>にみられる形容詞対の人生イメージ調査項目(30項目)を提示して、「あなたは、自分の人生について、どんな感じ(イメージ)をもっていますか」という質問に、5段階評定で回答を求めた。

30組の形容詞対は、事前に、中学生(2年生、36名)に予備調査をして、「自分の人生」という言葉から連想することをできるだけ多くあげてもらい、その結果を整理したものと、石川(1968)<sup>(3)</sup>の研究、返田(1970)<sup>(4)</sup>の研究、Osgoodら(1957)<sup>(5)</sup>の50の形容詞対を参考にしながら選定したものである。

各項目(尺度)は、ネガティブな評定からポジティブな評定までを、等間隔距離尺度として、そ

<表 2> 人生イメージの調査票

	非 常 に	や や	ど ち ら も い	や や	非 常 に
1 暗 い					明 る い
2 短 か い					長 い
3 む な し い					充 実 し た
4 つ め た い					あ た た か い
5 狭 い					広 い
6 不 安 な					安 心 な
7 き ら い な					す き な
8 のぞみのない					のぞみのある
9 軽 い					重 い
10 ぼんやりした					はっきりした
11 やる気のぶい					やる気のでる
12 不 幸 な					幸 福 な
13 変化のない					変化のある
14 不 健 康 な					健 康 な
15 不 公 平 な					公 平 な
16 苦 し い					楽 し い
17 きゅうくつな					自 由 な
18 意味のない					意味のある
19 小 さ い					大 き い
20 平 凡 な					特 色 ある
21 まがりくねった					まっすぐな
22 弱 い					強 い
23 わ る い					よ い
24 悲 し い					う れ し い
25 つまらない					おもしろい
26 いいかげんな					まじめな
27 地 味 な					派 手 な
28 受 動 的					能 動 的
29 貧 し い					豊 か な
30 汚 い					き れ い

れぞれ1~5の評定点を与え、スコア化した。

なお、調査結果の統計処理は、名古屋大学大型計算機センターのFACOM M-200を利用して行った。

〈表 3〉 人生イメージの因子分析結果(バリマックス回転後)

項	目(形容詞対)	Factor I	Factor II	Factor III	Factor IV	h <sup>2</sup>
1	明るい — 暗い	.425	.279	.275	.386	.483
2	長い — 短い	.201	.413	.135	.014	.229
3	充実した — むなしい	.256	<b>.607</b>	.136	.189	.448
4	温かい — 冷たい	.405	.474	.129	.251	.468
5	広い — 狭い	.481	.479	.133	.091	.487
6	安心な — 不安な	.316	.353	.216	.497	.518
7	好きな — 嫌いな	.295	.429	.323	.438	.547
8	望みのある — 望みのない	.144	<b>.546</b>	.340	.363	.566
9	重い — 軽い	-.022	.047	.044	-.398	.163
10	はっきりした — ぼんやりした	.189	.307	<b>.579</b>	.289	.549
11	やる気のでる — やる気のでない	.314	.389	<b>.542</b>	.208	.587
12	幸福な — 不幸な	<b>.576</b>	.402	.174	.333	.634
13	変化のある — 変化のない	.083	.362	.277	.053	.217
14	健康な — 不健康な	<b>.529</b>	.268	.091	.091	.368
15	公平な — 不公平な	<b>.601</b>	.279	.235	.212	.539
16	楽しい — 苦しい	<b>.573</b>	.298	.081	.438	.616
17	自由な — 不自由な	.383	.362	.273	.376	.494
18	意味のある — 意味のない	.244	<b>.641</b>	.393	.086	.632
19	大きい — 小さい	.390	.489	.390	.032	.544
20	特色ある — 平凡な	.169	.194	<b>.644</b>	-.004	.481
21	まっすぐな — まがりくねった	.358	.209	.491	.311	.510
22	強い — 弱い	<b>.553</b>	.204	.475	.082	.580
23	よい — わるい	.445	.468	.339	.135	.550
24	うれしい — 悲しい	.492	.324	.367	.377	.624
25	おもしろい — つまらない	.452	.390	.351	.351	.603
26	まじめな — いいかげんな	.236	.382	.350	-.078	.330
27	派手な — 地味な	<b>.505</b>	.012	.262	.055	.327
28	能動的 — 受動的	.391	.195	.399	-.039	.352
29	豊かな — 貧しい	<b>.633</b>	.305	.191	.166	.558
30	きれいな — きたない	<b>.620</b>	.251	.232	.144	.522
$\Sigma a^2$		5.05	4.18	3.30	2.07	14.60
$\Sigma a^2 / N (\%)$		16.83	13.93	11.00	6.90	48.66
寄与率		34.59	28.63	22.61	14.18	

(註) 太字の数値は、因子負荷量が .500 以上のものを示している。

## 結果と考察

## 1. 人生イメージ（尺度）の因子構造

## (1) 因子分析による結果

本研究では、中学生の人生イメージを測定するために、30組の形容詞対から構成されたSD尺度を用いた。はじめに、この人生イメージ（尺度）の因子構造を検討していくことにする。

中学生の人生イメージの内部構造とその基本的因子を抽出するために、調査対象とした294名（中学生全体）のデータをもとに、30項目間の相関係数行列を求め、因子分析を行った。方法は、主因子法で、固有値1.0以上を基準として因子の抽出を行ったところ、4つの因子が抽出された。ついで、それをバリマックス法によって直交回転した。その結果は、〈表3〉に示すとおりである。

次に各々の因子をみていくことにする。

## 〔第Ⅰ因子〕

項 目（形容詞対）	因子負荷量
29 豊かな — 貧しい	.633
30 きれいな — きたない	.620
15 公平な — 不公平な	.601
12 幸福な — 不幸な	.576
16 楽しい — 苦しい	.573
22 強い — 弱い	.553
14 健康な — 不健康な	.529
27 派手な — 地味な	.505

などに高い負荷量が認められることから、主として、自己の人生に対する情緒的な側面を評価する因子と考えられる。そこで、第Ⅰ因子は、「情緒的評価」の因子と命名した。

## 〔第Ⅱ因子〕

項 目（形容詞対）	因子負荷量
18 意味のある — 意味のない	.641
3 充実した — むなしい	.607
8 望みのある — 望みのない	.546
19 大きい — 小さい	.489
5 広い — 狭い	.479
4 温かい — 冷たい	.474
23 よい — わるい	.468

第Ⅱ因子は、自己の人生に対する「価値的評価」の因子と解釈される。

## 〔第Ⅲ因子〕

項 目（形容詞対）	因子負荷量
20 特色ある — 平凡な	.644
10 はっきりした — ぼんやりした	.579
11 やる気のでる — やる気のでない	.542
21 まっすぐな — まがりくねった	.491
28 能動的 — 受動的	.399

第Ⅲ因子は、「目標志向性」に関する因子と推察される。

## 〔第Ⅳ因子〕

項 目（形容詞対）	因子負荷量
6 安心な — 不安な	.497
7 好きな — 嫌いな	.438
16 楽しい — 苦しい	.438

.500以上の負荷量を示す項目は見られないが、第Ⅳ因子は、一応、「親近性」の因子と考えられる。

因子分析によって4因子まで抽出されたが、〈表3〉からも明らかのように、第Ⅰ因子から第Ⅲ因子までの累積寄与率は、約86%になっている。第Ⅳ因子の場合、.500以上の高負荷項目が見られなかったことなどから、以下の分析では、第Ⅰ因子、第Ⅱ因子、第Ⅲ因子の3つを主要な因子（尺度）として検討を進めることにした。

## (2) 人生イメージ因子尺度の内的整合性

因子分析の結果に基づき選定された項目によって、3つの因子尺度が構成された。因子尺度の内的整合性を調べるため、まず、各因子の合成（総合）得点の平均値を求め、因子尺度を構成している各項目得点との間の積率相関係数を求めた。〈表4〉は、その結果を示したものである。

この表からも明らかのように、各因子尺度における合成得点の平均値とそれを構成する項目得点との相関は、いずれの尺度においても高くなっている。

また、各因子尺度の内的整合性のもう1つの指標として、Cronbachの $\alpha$ 係数を求めた。その結果は、〈表5〉に示すとおりである。

Cronbachの $\alpha$ 係数による因子尺度の信頼性は、全体では、min. (.805) ~ max. (.913)の値をとっており、各因子尺度を構成する項目群に高い内的整合性が認められる。

<表 4> 人生イメージ尺度における平均得点と構成項目得点との相関係数

因子とその構成項目		全 体	性 別		学 年 別	
			男 子	女 子	1 年 級	3 年 級
情 緒 的 評 価	明るい — 暗い	.656	.613	.692	.708	.650
	幸福な — 不幸な	.737	.675	.798	.674	.756
	健康な — 不健康な	.631	.648	.610	.531	.708
	公平な — 不公平な	.696	.678	.715	.648	.688
	楽しい — 苦しい	.697	.695	.695	.664	.679
	強い — 弱い	.634	.605	.663	.636	.571
	うれしい — 悲しい	.734	.669	.792	.580	.761
	おもしろい — つまらない	.728	.715	.737	.693	.742
	派手な — 地味な	.418	.403	.422	.405	.457
	豊かな — 貧しい	.697	.659	.734	.668	.680
きれいな — きたない	.682	.678	.683	.585	.684	
価 値 的 評 価	充実した — むなしい	.633	.595	.662	.525	.627
	温かい — 冷たい	.627	.639	.611	.549	.663
	広い — 狭い	.621	.579	.658	.535	.638
	望みのある — 望みのない	.605	.566	.641	.550	.549
	意味のある — 意味のない	.680	.679	.676	.604	.717
	大きい — 小さい	.663	.607	.713	.581	.705
よい — わるい	.670	.661	.677	.661	.666	
目 標 志 向 性	はっきりした — ぼんやりした	.649	.621	.682	.624	.558
	やる気のでる — やる気のでない	.678	.633	.718	.664	.593
	特色ある — 平凡な	.559	.708	.519	.587	.489
	まっすぐな — まがりくねった	.589	.605	.574	.554	.497
	能動的 — 受動的	.476	.393	.555	.479	.504

<表 5> 人生イメージ各因子尺度の信頼性 (Cronbach の  $\alpha$  係数)

因子尺度	全 体	性 別		学 年 別	
		男 子	女 子	1 年 級	3 年 級
I 情 緒 的 評 価 (11項目)	.913	.903	.921	.892	.915
II 価 値 的 評 価 (7項目)	.868	.854	.879	.879	.871
III 目 標 志 向 性 (5項目)	.805	.791	.816	.816	.758

以上の結果より、3つの因子尺度は、信頼性 (内的整合性) の高いものであるといえる。

## 2. 人生イメージの発達の变化

ここでは、中学生における「自己の人生」に対するイメージの発達の变化、すなわち、学年推移に伴うイメージの変容に焦点をあてながら、検討していくことにする。

### (1) 項目ごとの検討

〈表6〉および〈表7〉は、男女各々の人生イメージ各項目の平均値、標準偏差、学年間のt検定結果を示したものである。なお、各項目は、〈表4〉をもとに配置換えしてある。

以下、〈表6〉、〈表7〉をもとに、セマンティック・プロフィールを描き、中学生の人生イメージの発達の变化を考察する。

〈図1〉は、男子生徒について、学年別に「自己の人生」のセマンティック・プロフィールを、〈図2〉は、女子生徒について、男子生徒の場合と同様、「自己の人生」のセマンティック・プロフィールを描いたものである。両図からも明らかなように、男女とも、学年を問わず、「自己の人生」については、総体的にネガティブ（否定的・非好意的・悲観的）なイメージは持たれていない。全体的な傾向として、中学生は、「自己の人生」を、「健康な」、「望みのある」、「明るい」、「幸福な」、「楽しい」、「きれいな」、「うれしい」、「おもしろい」、「自由な」、「大きな」、「よい」ものとして認知している。

中学生は、「自己の人生」を一般的にポジティブ（肯定的・好意的・楽観的）にみる傾向が認められるものの、その水準・程度には、学年間で顕著な違いがみられる。t検定の結果、男女とも、学年間で、全30項目のうち、21項目について、有意な差が認められた。そのほとんどの項目において、1年生と比較して、3年生は、ポジティブ傾向の水準が低下している。すなわち、男女とも、学年の進行に伴って、「自己の人生」に対する肯定度や好意度のレベル・ダウンが認められる。

レベル・ダウンの大きい項目を第5位まであげてみると、男子では「楽しい（差-0.80）」、「やる気のでる（差-0.67）」、「安心な（差-0.65）」、「明るい（差-0.64）」、「うれしい（差-0.63）」の順に、女子では「楽しい（差-0.80）」、「まっすぐな（差-0.76）」、「はっきりした（差-0.74）」、「公

平な（差-0.65）」、「うれしい（差-0.62）」の順になっている。男女共通して、「楽しい」という項目の平均値の差が最も大きくなっている点は着目される。

以上の結果を総合すると、全体として、中学生は、男女とも、「自己の人生」をポジティブに認知する傾向があるものの、学年の推移に伴って、ポジティブ認知の水準・程度は低下し、イメージが徐々に不明確になってきているといえる。このような学年進行に伴う、人生イメージのポジティブ認知の低下傾向や不明確化傾向は、上級学校への進学や受験など進路選択上の問題が現実的・顕在的に意識化されるプロセスに対応しているように推察される。

### (2) 因子尺度による検討

次に、項目ごとの分析を総括的に把握する意味で、因子分析の結果にもとづいて作成された因子尺度を用いて、学年進行に伴う人生イメージの発達の变化を検討することにする。

〈表8〉は、男子の学年間における各因子尺度（合成得点）の平均値と標準偏差、学年間のt検定結果を示したもので、〈表9〉は、女子についてのそれを示したものである。また、〈図3〉、〈図4〉は、両表をもとに、プロフィール化したものである。ただし、各因子尺度における構成項目数は異なっているので、理論的平均値が同一となるように、合成得点を項目数で割った値を、グラフに記載した。以下、プロフィールを中心にみていくことにする。

〈図3〉、〈図4〉に示されているように、男女ともに、1年生と比べ、3年生では、いずれの側面（因子）の平均値も低くなっている。すなわち、男女ともに、学年が進行するのに伴って、「自己の人生」に対する、「情緒的評価」、「価値的評価」、「目標志向性」の肯定度（ポジティブ認知の水準）を低下させている。とりわけ、「情緒的評価」と「目標志向性」の発達の低下傾向は、著しいといえる。なお、「目標志向性」は、3年生段階では、男女ともに、得点の平均値がほぼニュートラルな位置にきており、この側面のイメージは極めて不明確なものになっている。

また、男子と女子の、各学年におけるプロフィー

<表 6> 人生イメージ各項目の平均値および標準偏差(男子)

項 目 (形容詞対)		1 年		3 年		t 検 定			
		M	SD	M	SD	t 値	有意性		
情 緒 的 評 価	1	明るい	—暗い	3.92	0.83	3.28	1.04	4.00	***
	12	幸福な	—不幸な	3.82	1.03	3.42	1.05	2.27	*
	14	健康な	—不健康な	4.03	1.08	3.62	1.09	2.47	*
	15	公平な	—不公平な	3.74	0.89	3.15	0.99	3.70	***
	16	楽しい	—苦しい	4.00	0.91	3.28	1.01	4.37	***
	22	強い	—弱い	3.56	0.89	3.18	0.87	2.51	*
	24	うれしい	—悲しい	3.91	0.87	3.28	0.89	4.16	***
	25	おもしろい	—つまらない	3.74	1.03	3.35	0.94	2.32	*
	27	派出な	—地味な	3.09	0.79	2.77	0.70	2.50	*
	29	豊かな	—貧しい	3.78	0.95	3.33	0.75	3.01	**
30	きれいな	—きたない	3.81	0.90	3.32	0.91	3.16	**	
価 値 的 評 価	3	充実した	—むなしい	3.41	0.76	3.00	0.90	2.89	**
	4	温かい	—冷たい	3.53	0.92	3.32	0.98	1.28	
	5	広い	—狭い	3.64	0.93	3.28	1.03	2.15	*
	8	望みのある	—望みのない	3.74	0.87	3.45	0.87	1.96	
	18	意味のある	—意味のない	3.63	0.94	3.30	0.83	2.14	*
	19	大きい	—小さい	3.71	0.97	3.37	0.76	2.23	*
23	よい	—わるい	3.73	0.89	3.27	0.88	3.05	**	
目 標 志 向 性	10	はっきりした	—ぼんやりした	3.36	0.94	3.05	0.89	1.96	
	11	やる気のでる	—やる気のでない	3.77	0.98	3.10	0.93	4.06	***
	20	特色ある	—平凡な	3.26	1.01	2.95	0.85	1.89	
	21	まっすぐな	—まがりくねった	3.50	0.94	3.15	0.86	2.25	*
	28	能動的	—受動的	3.51	0.83	3.03	0.66	3.65	***
剰 余 項 目	6	安心な	—不安な	3.50	0.96	2.85	0.92	4.01	***
	7	好きな	—嫌いな	3.63	0.88	3.37	0.86	1.74	
	9	重い	—軽い	3.05	0.91	3.08	0.85	-0.21	
	2	長い	—短い	3.47	1.05	3.20	0.95	1.58	
	13	変化のある	—変化のない	3.27	0.96	3.17	0.83	0.66	
	17	自由な	—不自由な	3.79	0.96	3.27	1.02	3.12	**
	26	まじめな	—いいかげんな	3.41	0.92	3.10	0.92	1.97	

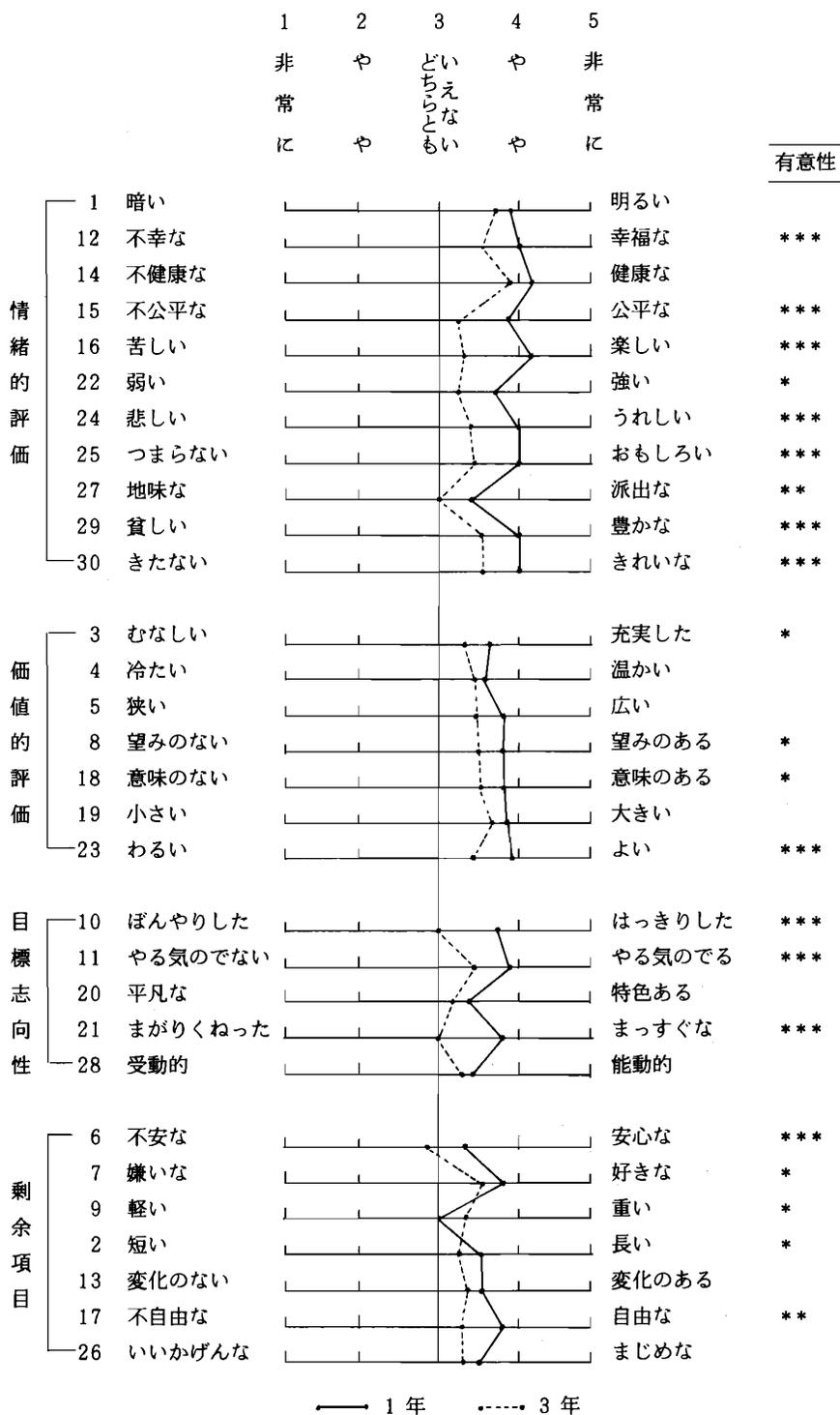
(註) \*\*\*……P<.001 , \*\*……P<.01 , \*……P<.05

〈表 7〉 人生イメージ各項目の平均値および標準偏差(女子)

項 目 (形容詞対)	1 年		3 年		t 検 定					
	M	SD	M	SD	t 値	有意性				
情 緒 的 評 価	1	明るい	—	暗い	3.94	1.02	3.66	0.91	1.78	
	12	幸福な	—	不幸な	4.01	0.95	3.54	0.86	3.23	***
	14	健康な	—	不健康な	4.15	1.10	3.86	0.85	1.77	
	15	公平な	—	不公平な	3.84	0.94	3.19	0.87	4.49	***
	16	楽しい	—	苦しい	4.12	0.96	3.32	1.01	5.06	***
	22	強い	—	弱い	3.61	0.94	3.24	0.87	2.52	*
	24	うれしい	—	悲しい	4.00	0.94	3.38	0.89	4.23	***
	25	おもしろい	—	つまらない	3.99	0.99	3.43	0.92	3.62	***
	27	派手な	—	地味な	3.29	0.78	2.97	0.64	2.79	**
	29	豊かな	—	貧しい	3.95	0.80	3.49	0.78	3.67	***
30	きれいな	—	きたない	4.09	0.82	3.51	0.75	4.54	***	
価 値 的 評 価	3	充実した	—	むなしい	3.57	0.82	3.24	0.82	2.51	*
	4	温かい	—	冷たい	3.63	0.85	3.54	0.86	0.68	
	5	広い	—	狭い	3.78	0.94	3.49	1.06	1.83	
	8	望みのある	—	望みのない	3.84	0.94	3.50	0.83	2.40	*
	18	意味のある	—	意味のない	3.84	0.88	3.49	0.85	2.56	*
	19	大きい	—	小さい	3.76	0.88	3.57	0.86	1.35	
23	よい	—	わるい	3.94	0.95	3.35	0.78	4.19	***	
目 標 志 向 性	10	はっきりした	—	ぼんやりした	3.74	0.98	3.00	0.88	4.98	***
	11	やる気のでる	—	やる気のでない	3.89	0.98	3.36	0.97	3.35	***
	20	特色ある	—	平凡な	3.37	1.09	3.18	0.97	1.14	
	21	まっすぐな	—	まがりくねった	3.79	0.84	3.03	0.95	5.33	***
	28	能動的	—	受動的	3.38	0.90	3.28	0.77	0.70	
剰 余 項 目	6	安心な	—	不安な	3.34	1.02	2.76	0.93	3.72	***
	7	好きな	—	嫌いな	3.76	0.95	3.45	0.78	2.22	*
	9	重い	—	軽い	3.01	0.88	3.27	0.75	-1.96	*
	2	長い	—	短い	3.54	1.01	3.15	1.07	2.33	*
	13	変化のある	—	変化のない	3.48	0.86	3.35	0.90	0.88	
	17	自由な	—	不自由な	3.82	1.00	3.34	0.91	3.13	**
	26	まじめな	—	いいかげんな	3.51	0.82	3.26	0.83	1.93	

(註) \*\*\*……P&lt;.001 , \*\*……P&lt;.01 , \*……P&lt;.05





(註) \*\*\*……P<.001 , \*\*……P<.01 , \*……P<.05

<図 2> 「自己の人生」のセマンティック・プロフィール(女子)

<表 8> 各因子尺度の平均値および標準偏差(男子)

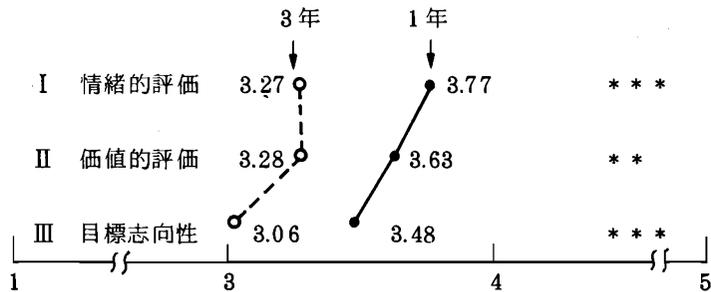
因子尺度	1年		3年		t検定	
	M	SD	M	SD	t値	有意性
I 情緒的評価	41.46	6.42	35.98	7.54	4.57	***
II 価値的評価	25.38	4.05	22.98	4.77	3.17	**
III 目標志向性	17.40	3.34	15.28	2.86	3.90	***

(註) \*\*\*.....P<.001, \*\*.....P<.01

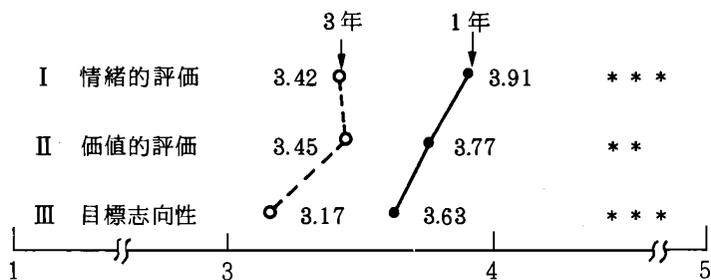
<表 9> 各因子尺度の平均値および標準偏差(女子)

因子尺度	1年		3年		t検定	
	M	SD	M	SD	t値	有意性
I 情緒的評価	42.99	7.69	37.61	6.93	4.45	***
II 価値的評価	26.37	4.69	24.18	4.52	2.94	**
III 目標志向性	18.17	3.74	15.85	3.37	4.03	***

(註) \*\*\*.....P<.001, \*\*.....P<.01



<図 3> 因子尺度別にみた「自己の人生」のプロフィール (男子)



<図 4> 因子尺度別にみた「自己の人生」のプロフィール (女子)

ルのパターンは、極めて類似しており、発達の变化の様相にも、顕著な性差は認められない。

男女とも、「自己の人生」に対して、1年生段階では、「情緒的評価」の側面における肯定度が他の2側面と比べ高くなっており、全般的に楽観的、自己肯定的なイメージを描いている。一方、3年生の段階では、いずれの側面もポジティブに

認知する傾向は低いのであるが、相対的に「評価」の側面で「自己の人生」をイメージ化させているといえよう。

以上みてきたように、中学生における「自己の人生」に対するイメージは、学年の進行に伴い、ポジティブに認知する傾向が低下し、はっきりしなくなっている。この結果から考えられることは、

3年生という卒業学年では、現実的には、「自己の人生」であるとか「自己の生き方」のような、言わばストレートに「進学」や「受験」に結びつかない問題は、あまり考えようとしなない、あるいは、自己の本格的な問題として真剣に考える時間的余裕のない状況が推察される。人生観や生き方の確立は、この時期においても重要な発達課題の1つであるが、現実的には、真剣に「人生」や「生き方」を問う以前に、目の前にある卒業時の進路問題が大きな関心事になっているといえよう。

進路の問題は、単に、短期的な卒業時の進路選択のみでなく、卒業時も含めて、長期的展望に立って、自己の人生をどう生きるかといった、人間としての生き方も考えられなければならないのである。こうした点からも、「将来の人生設計や望ましい生き方の確立」を指導・援助する進路指導は、ますます重要なものになってくると考えられる。

## 要 約

中学生の人生イメージについて、SD法による調査結果をもとに検討してきた。

これまでの検討結果は、次のように要約できる。

- ① 因子分析により、人生イメージ（尺度）の因子構造を検討した結果、全体的には、Ⅰ「情緒的評価」、Ⅱ「価値的評価」、Ⅲ「目標志向性」、Ⅳ「親近性」、の4因子が抽出された。
- ② 第Ⅰ因子から第Ⅲ因子までを主要な因子尺度として構成したが、3つの尺度とも信頼性（内的整合性）の高いものであることが確認された。
- ③ 人生イメージの発達の変化について、項目ごとに検討した結果、全体としては、男女とも、「自己の人生」を「健康な」、「望みのある」、「明るい」、「幸福な」、「楽しい」など、ポジティブ（肯定的・好意的・楽観的）に認知する傾向が認められたものの、学年進行に伴って、ポジティブな認知の水準・程度は低下し、イメージが不明確になってきていた。因子尺度による検討でも、学年進行に伴って、同様な発達の低下傾向が認められた。

本研究の結果を整理すれば、以上の3点に整理できよう。学年が進むのに伴って、「自己の人生」に対するイメージが明確でなくなってきた。このことから、「自己の人生」や「自己の生き方」のように、直接的に、卒業時の進路選択にかかわらない問題は、十分に考えていない、あるいは、卒業時の進路選択が終わった後の段階までその解釈を延期せざるをえない、今日の状況がうかがわれる。長期的展望に立って、進路選択が行えるような指導、すなわち、「将来の人生設計や望ましい生き方の確立」を目指した進路指導を有効・適切に実践することが大切であると考えられる。

## 引用・参考文献

- (1) 文部省, 1975, 中学校・高等学校進路指導の手引——高等学校ホームルーム担任編, 日本職業指導協会, pp. 3—4。
  - (2) 見坊豪紀・金田一春彦・他(編), 1981, 新明解国語辞典・第3版, 三省堂, p. 586。
  - (3) 石川透, 1968, 中学生の生活感情, 依田新(編), 現代青年の人格形成, 金子書房, pp. 139—156。
  - (4) 返田健, 1970, 青年の世界観・人生観, 藤原喜悦(編), 現代青年の意識と行動3, 大日本図書, pp. 219—271。
  - (5) Osgood, C.E., Suci, G.J., Tannenbaum, P. H., 1957, *The Measurement of Meaning*, the University of Illinois, p.37.
- 岩下豊彦, 1983, SD法によるイメージの測定, 川島書店。
- 高木修, 1976, セマンティック・ディファレンシャル法, 西田春彦・新睦人(編), 社会調査の理論と技法(Ⅱ), 川島書店, pp.151—180。
- 神谷孝男・鳥居崇(編), 1984, 明日からの進路指導, 荘人社。